

授業科目名	地域情報論	担当教員 藤本 悠			
必修の区分	選択				
単位数	2 単位				
授業の方法	講義				
開講年次	3 年 第 3 クオーター				
講義内容	<p>本授業では、地域情報の収集・分析を通じて、生成 AI を活用し地域資源の価値を高めるコンテンツを作成することを目的としています。</p> <p>具体的には、市町村誌や行政データなどの公的な資料を活用し、地域の特性や歴史、課題を深く理解することから始めます。その上で、生成 AI の技術を用い、文章や画像、動画といった多様な形式で情報を効果的に発信できるコンテンツを生成します。</p> <p>また、地域調査としてロケーション・ハンティングを実施し、現地に足を運ぶことで得られる臨場感や生の情報を活用し、コンテンツの説得力と魅力を高める工夫を行うとともに、地域資源の新たな価値を見出し、観光誘致や地域活性化に繋げることを目指しています。</p> <p>技術と実地調査を融合させた実践的な取り組みが特徴の授業です。</p>				
到達目標	<p>この授業では、学生が地域情報を収集し、効果的に分析する技術を身につけることを重要な到達目標としています。具体的には以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の歴史や文化、行政データなどを適切に調査し、それらをもとに地域の課題や魅力を客観的に理解する力を養います。</li> <li>2. 生成 AI を活用して地域資源の特性を最大限に引き出したコンテンツを作成する能力を高めることを目指します。また、AI ツールを適切に選び、効果的に活用する実践的スキルの向上を目指します。</li> <li>3. 地域資源の価値を向上させる具体的な提案やプロジェクトを行うことを通じて、現場で役立つ実践的なスキルを獲得します。</li> </ol> <p>これらの目標を達成することで、地域社会に貢献する能力を育成し、学生が地域の課題解決や魅力発信の担い手として活躍できる力を培うことを目指します。</p>				
授業計画	<p>第1回：イントロダクション      第2回：地域情報論の基本概念      第3回：地域情報の収集と分析      第4回：市町村誌や行政データの利用方法      第5回：ストーリー生成のためのプロンプト      第6回：フィールドワーク（1）      第7回：フィールドワーク（2）      第8回：フィールドワーク（3）      第9回：フィールドワーク（4）</p>				

	第10回：コンテンツ作成ワークショップ 第11回：プロジェクト実施 第12回：成果発表とフィードバック
事前・事後学習	生成AIへのプロンプトに慣れるために、日常的にプロンプトを活用できるように意識すること。
テキスト	特に指定しない
参考文献	適宜紹介する
成績評価の基準	最終成果のみで成績を行う。採点には生成AIを使用するが、事前に採点プロンプトを公開することとする。
履修上の注意 履修要件	フィールドワークでの交通費、入館料、昼食代等に関しては各自の実費負担となる。
実践的教育	該当しない。
備考欄	ICTの流行は非常に速いスピードで変化するため、シラバスの内容に関わらず、旬となる情報については積極的に取り入れるので、授業内容の順番や内容そのものが変更となる可能性がある。  定員50名オーバーの際には、抽選を実施する。なお、4年次生のみ、優先的に履修登録を認める。